イギリス留学
ロンドン ５月

ロンドン滞在最後の月。主なスケジュールとして、語学学校後半、PFUEでのインターンが挙げられる。ロンドンは高緯度帯のため日長がみるみる長くなっていった（日の出は午前４時台、日の入りは午後１０時近く）のが新鮮だった。また記録的な熱波にも襲われ、エアコンの普及していないこの国では暑さへの限界を感じた。ロンドンでの生活に徐々に慣れつつ沢山の学友や恩師ができ、人との繋がりのかけがえのなさを噛み締めた。以下には、一枚目に食での観点からのレポート、二枚目にロンドン最後の研修についてのレポートを記した。



実際に売られていたヤギミルク

ヤギミルク初体験

英国では比較的一般的にヤギミルクが販売されており、個人的に初めて飲んだ。日本でもよく飲まれているホルスタイン乳のようなさっぱり感はありつつも、味のパンチや後味としてマトンのような独特のクセがあり、好みを分ける味を感じた。

しかしコラムを見ると実際に乳児がこれを使って体質改善できた話や、昔の日本ではよく家庭用のヤギを使ってミルクが飲まれていたことから、人間の営みからは切っても切り離せない存在だと感じた。

雄大な自然での放牧

ロンドンを抜け北部へと向かう特急の道中、徐々にのどかな風景が増えていき、牛や羊の放牧の景色が一般的となっていった。やはり都市部を抜けて農村部へ入り、農地の余裕ができるとそれに応じた農業形態がとられることを感じた。

また、日本ではあまりに一般的ではない羊の飼育が、牛並みに盛んな印象を受けた。視界の細かい白い点すべてが羊だったのには驚いた。


東海岸線沿いの特急「AZUMA」から見えた景色。

https://www.ucon-i.jp/global-training/abroadreports/

ANISA SAKURAI

THE LAST MONTH IN LONDON

語学学校後半

語学学校では仕上げを迎えた。徐々にスピーキング能力が養われ、思ったことをより正確に伝える表現力が身についてきたように思う。

授業スタイルとして、例文に個人に応じた回答を当てはめられる形式をとっており、授業を通して生徒がお互いの理解を深めることもでき、主体的にスピーキングを学ぶことができた。ロンドンならではの例文やイギリス英語もより汎用的な様式で学べ印象に残った。講師や生徒と楽しい時間を過ごせた。



最終日に撮った記念写真。良い思い出になった。

また、語学学校で親交を深めた友人と、日本人の友人とともに浴衣パーティを開催し、海外出身の友人にとって初めての浴衣を体験させた。友人はとても感動していたようで、「初めての日本」を体験してもらえる喜びを感じた。

ただ、浴衣の着付けの知見があまりに乏しく、動画を見ながら見様見真似で粗削りの着付けしか出来なかったので、日本人として少し恥ずかしかった。今後更に自国の文化についてしっかり勉強しようと思った。



友人とともに浴衣を着たこと自体がかけがえのない思い出となった。



PFUEからの景色。輸出のため空港により近い郊外に位置する。

インターン@PFUE

ヨーロッパを中心に展開するPFUの海外拠点であるPFUE(London)で１週間インターンとして通わせていただいた。３月にはかほく市本社でのインターンを経験したが、創業以来受け継がれている精神を、ここでも感じた。社会(顧客)に貢献する、そのような自社を誇りに思う、長期的に見て大切だと思う方に投資する、等。

ここでは、多国籍企業ならではの各国や各課の意見を尊重し合う精神が印象的だった。風通しも良い社風を感じた上、需要を汲み取り、かほくの生産・開発サイドと折り合いをつけ供給へ繋げていく様は、まさに人との繋がり・信頼の賜物だと感銘を受けた。私も胸を張ってこの会社を紹介できると感じた。

私もまた、国と国と繋ぎ、世界を「共に生きる隣人」へと感じさせる架け橋となりたいと思った。